

加西病院を支えてください

去る3月19日、加西病院のあり方検討委員会（長隆委員長）から答申を受けました。その要点は、①医師確保とともに中核病院となる努力をすること、②地方公営企業法の全部適用によって、人事や予算の権限を病院開設者（市長）から事業管理者（病院長）に委譲し、経営の効率化を図ること、③病院経営の専門家を登用・育成すること、④不要不急の時間外診療や理不尽なクレーマーの存在が医療現場を一層過酷にしていることを市民に理解してもらうことなどでした。

他方、国からは公立病院改革ガイドラインに基づき、本年度中に「加西病院の改革プラン」を作成するよう義務付けられました。

これまで加西病院は、何とか研修医を確保し、不良債務もありませんでしたが、今後、少子高齢化が進むと、入院・外来とも患者数が減って、経営環境は厳しくなると予想されます。

市民のための地域医療は何としてでも守らなければなりません。向う4年間に市債償還のピークを迎えることを考慮すると、加西市本体の財政を破綻させない範囲内でしか、加西病院への繰り出し（赤字補填）はできません。

そのような状況も考慮しつつ、改革プランの策定を待って、市長として、加西病院の経営方針を決定したいと考えています。

市民の皆様には是非ご理解いただきたいのは、加西病院が担っているのは「急性期医療」であるということです。コンビニ感覚で夜間救急を利用されては、医師



の過重労働になります。また、急性期治療が終わった患者さんには退院してもらい、後は、在宅や施設での慢性期医療に移っていただくのが、我が国の医療の仕組みです。そうしなければ病院経営が苦しくなるように、国が医療制度を決めているのです。急性期の医療が終わった患者さんを病院が「追い出す」訳ではなく、医療の内容に応じて医療機関が治療を分担する仕組みとなっていることをご理解ください。

ところで、加西病院で十分治療ができるのに、都市部の大病院での手術を希望する患者さんがいらっしゃるようです。これでは病院職員の士気は削がれ、手術患者の減少は、いずれ加西病院からの医師の引き揚げにつながります。かつて加西市内の出産総数の3分の1しか加西病院での分娩がなかったため、産婦人科医がいなくなったのと同じ事態が起きるかもしれません。どうか、加西病院で治せる病気は、加西病院で治すという意識をもってください。

約2万8千人の署名を受けて、産婦人科の廣瀬先生に着任願い、マタニティセンターをオープンしました。広々とした快適な個室で、食事も豪華で美味しいと評判です。

今後、県立加古川病院や姫路医療センターが整備されると、加西病院にとって一層経営環境が厳しくなるのではないかと懸念しています。

どうか、市民の皆様には、加西病院を適正に利用していただくようお願い申し上げます。（市長）

第5回加西病院ホスピタルフェアのご案内

日時：6/28（土） 午前9:00～12:00

場所：市立加西病院 1～2階

テーマ：守ろう！みんなの加西病院

*健康診断コーナー／血圧・血糖・体脂肪・指先動脈硬化度・動脈硬化度・ストレステスト

*相談コーナー／院長相談・ドック受付・研修医ふれあい

*体験コーナー／心肺蘇生・腹臥位療法・アロマセラピー・腰痛体操・試飲

*ブースコーナー／中央検査科・中央材料室・リハビリテーション科・

マタニティセンター

*公開講座／認知症（精神科 岡村Dr）ミニ講演：リビングウィル

*パネル展示／救急医療の現状等

*献血（ご協力お願いします）

*抽選コーナー（もれなく当たります）

★人気の動脈硬化度検査は、完全予約制とします。

申し込み方法は往復ハガキに（〒675-2393 加西市北条町横尾1-13 市立加西病院 ホスピタルフェア実行委員会宛て）住所、氏名、

年齢、ABI希望と明記の上、返信にも住所、氏名を書いて下さい。

6/14消印有効です。応募多数（80名予定）の場合は抽選を行い、当選された方には、おおよその時間を指定して、もれた方にもその旨を返信いたします。

参加料：無料

【問合・申込先】

加西病院 病院経営推進室

☎④2200

加西病院のコーナー

加西病院WEB サイト <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp/>

『加西病院のコーナー』新設！

加西病院から市民の皆さんに向けた情報発信の場として、このコーナーを作っていました。

新聞紙上では、今『赤ちゃんを産める場所が無くなる！』『病院の小児科を守る母親の会結成！』『救急たらいまわしで患者死亡！』など地域住民の不安を掻き立てるおどろおどろしい医療崩壊の記事が踊っています。今やまさしく地方公立病院は嵐の海に浮かぶ小舟の様です。

この嵐の中、加西病院はどうすれば潰れないで持ちこたえることができるのか、どうすれば重症の入院医療や緊急の救急医療を市民に提供し続けることができるのか、どうすれば医療事故のリスクを少しでも下げ、安全な医療を実現できるのか、病院職員達は必死で考え模索しています。

その答えの一つは、市民の皆さんに支えてもらうしかないということです。そのためには、病院を締め付ける日本の厳しい医療制度改革や、社会やメデ



きらりスプリングコンサートで患者さんと共に（H20/3月）

加西病院職員と地域ボランティアの皆さんのコーラスクラブ“きらり”による患者さんのためのチャリティコンサートが、年4～5回院内で行われ、喜ばれています。

ィアが病院に求める無いものねだりの高い要求があること、そして、その中で加西病院職員が良い医療を希求する高い使命感に燃えて必死で努力していることを、市民の皆さんに知って頂くことが必須と考えます。

このコーナーを通して、市民の皆さんが病院を理解して下さり、加西病院がより良い公立病院として発展していけるよう祈っています。

（病院長）

— 春の叙勲・褒章 —

社会を支える地道な活動と功績をたたえ 加西市から2名が受賞



瑞宝単光賞（元法務教官）
玉置 悟 さん（67）
東長町

「少年との心のつながりが大切。信頼関係を築くことが大事でした。」

法務教官として34年間、非行に走った少年たちの矯正教育に携わってこられました。

木彫指導や農耕作業を通じて、一つのことを創り上げる「創造の喜び」を少年たちに感じてもらった教育に取り組まれました。

「職業としてまじめに取り組んだだけですが、賞をいただいたからには、それに恥じない生活をしていきたい。」と朗らかに話され、背筋をまっすぐ伸ばされました。



藍綬褒章（保護司）
後藤 栄一 さん（65）
北条町東高室

「みんな必ず良いところがある。それをしっかり見てあげたい。」

西福寺の住職を務めながら、保護司の活動を約25年続けられています。現在は、北播保護区保護司会の会長として、地域の関係機関と連携し犯罪予防に尽力されています。

保護司は保護観察を受けている人と関わり、社会復帰の手助けをする仕事。

「私たちの仕事は縁の下の力持ち。社会的責任を持って仲間の保護司と共にコツコツと続けていきたい。」と誠実に使命感を語られました。